

シンポジウムリスト

12月13日（金）

基調講演 13:30-14:30 <大ホール>

「日本のミツバチ・研究・養蜂環境：最近の動向」佐々木正己（玉川大学名誉教授）

シンポジウム1（人文社会系） 15:30-18:00 <大ホール>

「ミツバチを家畜化する—ニホンミツバチをめぐる在来知と最新の知見」

講演1「日本の山間域における、伝統的ニホンミツバチ養蜂の総合的研究・映像化。—研究プラットフォームの作製にむけて」真貝理香（総合地球環境学研究所）

講演2「日本の養蜂の黎明期調査 そのⅠ：日本のセイヨウミツバチ飼育の出発点は新宿御苑」貝瀬収一（貝瀬養蜂場）、干場英弘（APISIS（ミツバチ科学情報サービス））

講演3「"過程"としてのセミ・ドメスティケーション、"型"としてのセミ・ドメスティケーション—トウヨウミツバチ（*Apis cerana*）飼養と巣箱をめぐるって」佐治靖（日本民俗学会員）

講演4「野生と家畜の間あるさまざまなニホンミツバチ養蜂戦略—九州山地の技法と巣箱の比較から」竹川大介（北九州市立大学）
オーガナイザー：竹川大介（北九州市立大学）

シンポジウム2（ゲノム） 15:30-16:30 <中ホール>

「ミツバチの“設計図”を読み解く」

講演1「ニホンミツバチの全ゲノム解説とミツバチの比較ゲノム解析」横井翔（農研機構）

講演2「ゲノム編集によるミツバチの遺伝子機能解析」河野大輝（東京大学）

講演3「ゲノム編集によるセイヨウミツバチの機能改良」畠山正統（農研機構）

オーガナイザー：河野大輝（東京大学）

シンポジウム3（世界の養蜂） 17:00-18:00 <中ホール>

「世界各地の養蜂事情」

講演1「UAEでかいましたアラビア半島の養蜂—伝統と課題」榎本ひとみ（アビシス（ミツバチ科学情報サービス））

講演2「モンゴルの養蜂—ミツバチがもたらす可能性と今後の課題」森麻衣子（国際農業協働協会（JAICAF））

講演3「世界で行われている養蜂プロジェクトと企業のCSR」鈴木一（坊ノ内養蜂園）

オーガナイザー：榎本ひとみ（アビシス（ミツバチ科学情報サービス））・鈴木一（坊ノ内養蜂園）

12月14日（土）

シンポジウム4（分子生物学） 10:00-11:30 <大ホール>

「天才昆虫ミツバチの脳のしくみを探る」

講演1「ミツバチのにおい学習の神経基盤」岡田龍一（神戸大学）

講演2「初期応答遺伝子を利用したミツバチの脳の神経活動の可視化」木矢剛智（金沢大学）

講演3「働きバチの齢差分業とDNAのメチル化」佐々木哲彦（玉川大学）

オーガナイザー：岡田龍一（神戸大学）・佐々木哲彦（玉川大学）

シンポジウム5（送粉・自然生態系） 10:00-11:30 <中ホール>

「生態系における送粉者の重要性と保全」

講演1「森のハナバチの餌集め：森林景観が巣作りに与える影響」永光輝義（森林総合研究所）

講演2「あなたの写真がマルハナバチを救う！？市民参加型調査「花まるマルハナバチ国勢調査」」大野ゆかり（東北大学）

講演3「ハナバチとヒトビトのつながり—意外だけど重要な関係性」横井智之（筑波大学）

オーガナイザー：光畑雅宏（アリストライフサイエンス）・横井智之（筑波大学）

12月14日（土）午後

特別講演 13:30-14:30 <大ホール>

「農業の生態リスク評価最前線」五箇公一（国立環境研究所）

シンポジウム6（農業） 15:00-17:00 <大ホール>

「日本におけるミツバチ・野生ハナバチの農業影響評価に向けて」

講演1「欧米における農業の規制状況」元場一彦（日本農業）

講演2「改正農業取締法とミツバチへの影響を軽減するための取組」石岡知洋（農林水産省）

講演3「野生ハナバチ類保全の観点からの評価検討」浜谷直史（環境省）

講演4「農業残留実態調査・感受性試験による野生ハナバチ類へのリスク評価」坂本佳子（国立環境研究所）

講演5「ハチ類も使える上手な病害虫防除」山本敦司（日本曹達）

オーガナイザー：坂本佳子（国立環境研究所）

シンポジウム7（高校・大学） 15:00-16:30 <中ホール>

「全国学生養蜂サミット2019」

札幌大通高校（北海道）、金足農業高校（秋田）、聖学院高校（東京）、日本工業大学駒場高校（東京）、安田学園中学校高等学校（東京）、富士見高校（長野）、富山商業高校（富山）、高松農業高校（岡山）、世羅高校（広島）、油木高校（広島）、帯広畜産大学（北海道）、名古屋学院大学（愛知）、龍谷大学（滋賀）、京都産業大学（京都）、近畿大学（広島）、北九州市立大学（福岡）

オーガナイザー：高橋純一（京都産業大学）・水野晶夫（名古屋学院大学）・藤瀬淳（相愛学園中学高等学校）

12月15日（日）

シンポジウム8（養蜂） 9:30-11:00 <大ホール>

「養蜂の現状と未来」

講演1「ミツバチダンスの自動解説 餌場の移り変わりから養蜂環境を考える」大久保悟（農研機構）

講演2「ダニ被害を克服しよう 未来に通じる最新の知見の紹介」松山茂（筑波大学）

講演3「スマート養蜂」伊東大輔（アドダイス）

オーガナイザー：松山茂（筑波大学）

シンポジウム9（送粉・農業生態系） 9:30-11:00 <中ホール>

「農業で活躍する送粉昆虫たち」

講演1「農水省プロジェクト研究「農業における花粉媒介昆虫の積極的利用技術の開発」の目的と意義」小沼明弘（農研機構）

講演2「ナシ、リンゴ、カキの野生訪花昆虫の多様性と共通性」中村祥子（森林総合研究所）

講演3「ウリ科果菜の送粉昆虫をモニタリングする」池本美都（筑波大学）

講演4「カキノキの訪花昆虫は何か？—体表付着花粉から分かること〜」日下石碧（農研機構）

講演5「身近なところで花粉を運ぶ昆虫たちとその役割」岸茂樹（農研機構）

オーガナイザー：横井智之（筑波大学）・光畑雅宏（アリストライフサイエンス）

シンポジウム10（ミツバチ生産物） 11:30-12:30 <大ホール>

「養蜂生産物研究の最前線」

講演1「熱帯産プロポリスの構成分析と機能性」熊澤茂則（静岡県立大学）

講演2「脳の老化予防とローヤルゼリー：ローヤルゼリーの新たな機能性とその物質的基盤」山國徹（東北大学）

オーガナイザー：中村純（玉川大学）

シンポジウム11（行動生態学） 11:30-12:30 <中ホール>

「ミツバチの社会行動を探る」

講演1「ミツバチの寝起き〜社会生活と体内時計〜」潤側太郎（大阪市立大学）

講演2「ホントはお熱いのが苦手？〜ニホンミツバチ熱殺蜂球形成の効力と副作用〜」宇賀神篤（JT生命誌研究館）

オーガナイザー：藍浩之（福岡大学）・佐々木謙（玉川大学）・原野健一（玉川大学）



ポスター発表一覧

活動紹介

No.	タイトル	発表者
1	タイみつばちプロジェクト活動紹介	濱屋岳生(And18's [タイみつばちプロジェクト]) 他
2	都心のミツバチがもたらす生物多様性	高橋進(TBSテレビ総務局CSR推進部)
3	かしまミツバチプロジェクト	中川憲一(かしまミツバチプロジェクト)
4	ミツバチから学んだ自然環境の大切さを次世代へ伝えていく活動	滝口一雄(株式会社山田養蜂場)
5	ニホンミツバチの保存活動 その2	新澤豊(ニホンミツバチ保存会) 他
6	近大ハニープロジェクト	山田芽吹(近畿大学) 他
7	8ちゃんねる・九州蜜蜂会 オフ会	野口浩章(奈良すずめ) 他
8	ニホンミツバチの養蜂を通じた百々水辺愛護会活性化の試み	浜崎健児(豊田市矢作川研究所) 他
9	龍谷大学農学部×湖南省養蜂プロジェクト紹介	山口万穂(龍谷大学) 他

高校生部門

No.	タイトル	発表者
10	日駒ニホンミツバチプロジェクトの活動紹介	室井春輝(日本工業大学駒場高校) 他
11	学校養蜂でここまでできた!	樋口慧(聖学院高等学校) 他
12	ミツバチからの恵みの有効活用	高橋嶺琉(金足農業高等学校) 他
13	ニホンミツバチの巣箱の観察を通して～出入りと重量増減に関して～	佐藤初香(金足農業高等学校) 他
14	スムシの忌避剤を探る	田畑萌(金足農業高等学校) 他
15	ニホンミツバチのミツロウ残渣の活用	菅原帆乃香(金足農業高等学校) 他
16	金足農業高校のニホンミツバチを取り巻く環境～蜂蜜に含まれるネオニコチノイド系農薬の分析調査を通じて～	三浦夏奈(金足農業高等学校) 他
17	セイヨウミツバチは人工甘味料を飲むのか?	飯田和生(安田学園高等学校) 他
18	クロマルハナバチの倍数化	森瀬太郎(安田学園高等学校) 他
19	ミツバチが形成する「生きた鎖」の適応的な意義とは?	吉村翼(安田学園高等学校) 他

研究部門

No.	タイトル	発表者
20	はちみつを美味しいと思う基準は何か?	高田知沙(龍谷大学) 他
21	セイヨウミツバチをダイズの品種改良に利用する	山口直矢(道総研) 他
22	派手なオスは暑さに強いのか?—クロマルハナバチにおける雌雄間での体温調節能力の違い—	上岡駿宏(東北大学) 他

No.	タイトル	発表者
23	ニホンミツバチにみられる地域間の遺伝的分化	若宮健(東北大学) 他
24	NMRメタボリックプロファイリングによる各国のビーポーレン(花粉荷)の成分分析および特徴づけ	瀧口沙希(東京大学) 他
25	国産蜂蜜のNMR分析—成分組成による特徴づけ、経時変化の追跡、採蜜時期による百花蜂蜜の成分組成の違い	住田喬哉(東京大学) 他
26	カメラとセンサによる養蜂監視システムの研究	寺田充樹(電気通信大学) 他
27	雄性不稔ダイズとセイヨウミツバチを用いたダイズ育種の効率化	津田 麻衣(筑波大学) 他
28	Being Dumbledore's Army	中泉雄登・向峯遼(筑波大) 他
29	ミツバチと共に未来を作る:超学際的研究プロセスにおける、ステークホルダーとの連携	Maximilian Spiegelberg (地球研) 他
30	都市養蜂におけるミツバチの訪花と緑化促進に関する研究	熊谷香澄(千葉大学) 他
31	緑地の違いがセイヨウミツバチと自生種のハチの分布に与える影響	掛谷知海(千葉大学) 他
32	都市養蜂におけるミツバチの訪花植物に関する研究 —八重洲、木場、柏の葉、西千葉の比較—	永瀬彩子(千葉大学)
33	家庭養蜂を通じて人々のコミュニケーションを促す場と道具の提案	藤本 郁(千葉大学)
34	ローヤルゼリーを対象としたミツバチカスト制を維持する物質の探索	新山敏生(摂南大学) 他
35	天然のミツバチに対する蛍光細菌の定着能力の解析	末次翔太(産総研) 他
36	高速ビデオ解析に基づくミツバチ計数システム	吉田大哲(広島大学) 他
37	スムシ(ハチノスツリガ)の防除法の研究	西村光男(九州大学)
38	女王とワーカーの行動をつくりだす脳内物質	佐々木謙(玉川大学)
39	オオミツバチとヒマラヤオオミツバチの遺伝的分化について	今井 静香(京都産業大学) 他
40	対馬のコマルハナバチの体色変異とボトルネック効果の関係について	満端 丞之介(京都産業大学) 他
41	ニホンミツバチのハチミツを発酵させる微生物について	近野 真央(京都産業大学) 他
42	フィリピンに生息するミツバチの生物系統地理学的研究	吉田 達哉(京都産業大学) 他
43	アジアにミツバチは何種類いるのか	奥山永・高橋純一(京都産業大学)
44	台湾に生息するタイワンハリナシバチの血縁構造および遺伝的多様性について	井上 諒(京都産業大学) 他
45	宮崎県綾町における日向夏に対するニホンミツバチ送粉サービスと景観構造との関係	光田晴(宮崎大学農学部)
46	セイヨウミツバチとニホンミツバチの季節別訪花源植物の比較	藤村佳樹(バイエルクロップサイエンス株式会社) 他
47	開花フェノロジーとセイヨウミツバチの季節別訪花観察—2	新木 康夫(バイエルクロップサイエンス株式会社) 他
48	8月の北海道における省力的な花資源の確保	小路敦(農研機構) 他
49	花を植えて蜂を呼ぶ!—花の混植による送粉者誘引実験—	平若将良(農研機構) 他
50	脅威は去ったのか?アカリランダニの急速な分布拡大と現在の状況	前田太郎(農研機構) 他